

授業科目名	身体コミュニケーション実習 1	担当教員	木田 真理子 児玉 北斗 深澤 南土実			
必修の区分	選択					
単位数	1 単位					
授業の方法	講義					
開講年次	1年 第1クオーター					
講義内容	この授業の目的は、会話やダンスなどを通じて身体的なコミュニケーションや表現の可能性を知ることにあります。内容は主に、会話や踊りが起こりやすい空間や人との間合いなどを探しながら、身体感覚に基づくコミュニケーション(交感や共感)のあり方を学んでゆくものです。					
到達目標	1. メンバー間で、身体の感覚に基づくコミュニケーションを／も取ることができるようになる 2. 自身の体験や他者の表現について感じたこと、思ったことを言語化することができる 3. 身体表現の可能性について考えることができる					
授業計画	<p>初回にガイダンスを行い、授業内容についてあらためて説明しますが、大きくは次のような内容を用意しています。</p> <p>01：ガイダンス【木田、児玉、深澤】</p> <p>02：歩く、話す、聞く【児玉】</p> <p>03：他者と自己の境界【児玉】</p> <p>04：ゾマティックス(身体の内的な感覚と動きとの関係)【児玉】</p> <p>05：身体表現における視覚【木田】</p> <p>06：身体表現における聴覚【木田】</p> <p>07：身体表現における触覚【木田】</p> <p>08：からだの声をきく、身体との対話（脱力する、重心・重力を感じる、呼吸と身体感覚）【深澤】</p> <p>09：空間と遊ぶ（床・空間・他者を感じる、歩くなど）【深澤】</p> <p>10：自分を表現する、他者を意識する【深澤】</p> <p>11：空間を意識して動きを構成し、他者と動く【深澤】</p> <p>12：1～11のまとめ（レポート）【深澤】</p>					

事前・事後学習	<p>児玉：授業内容を踏まえ、生活の中で「身体的なコミュニケーション」を感じるときのことと関連させて記述する（事前・事後学習として週4時間程度）。</p> <p>木田：自分の嗜好や振る舞いが何から影響を受けているか反省し、記述してみる（事前・事後学習として週4時間程度）。</p> <p>深澤：授業内容をもとに、日頃から自身の身体感覚に注意深くなつてみると、自分の身体の内側と外側との関係を探ったり、他者の身体動作に興味を持ち自分が何から気づきを得ているか書き留める（事前・事後学習として週4時間程度）。</p>
テキスト	特に指定しない
参考文献	授業内で適宜紹介する
成績評価の基準	平常点50%：毎回の授業中の様子をもとに到達目標の1と2から判定する。 課題点50%：授業内容に関するレポートを1回課し、到達目標の3から判定する。
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	<p>教育の質保証ならびに授業の運営・安全確保の観点から受講定員を30名とします。</p> <p>定員を超過した場合は、1年生を最優先します。2年生以上で選考が必要な場合は、成績(GPA等)を見て担当教員が判断します。</p> <p>この授業では複数人でワークすることが多くなるので、遅刻には気を付けること。</p> <p>他の参加者との身体的接触を伴う場合があります。強く抵抗がある場合は教員とよく相談の上で履修してください。</p>